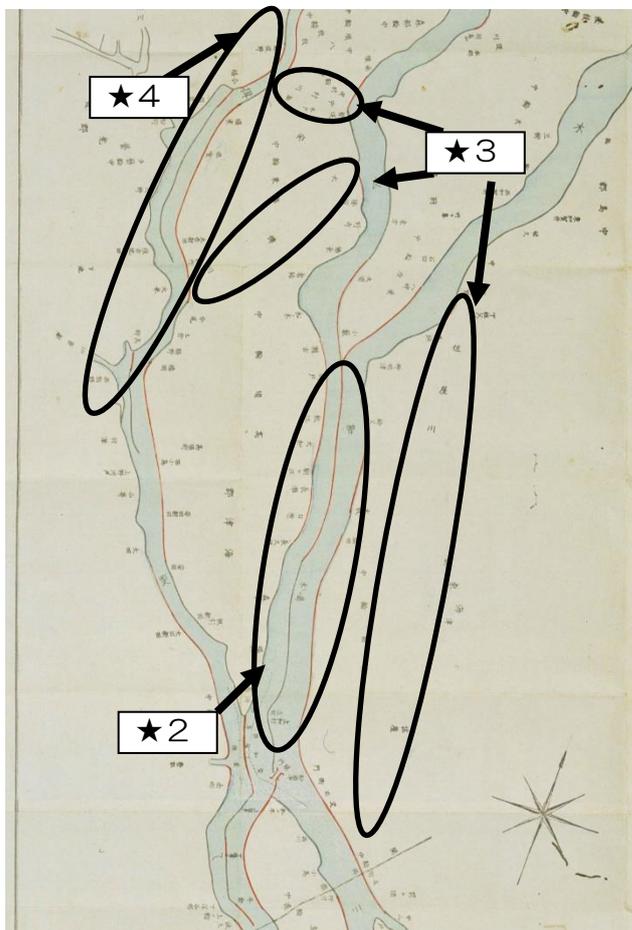
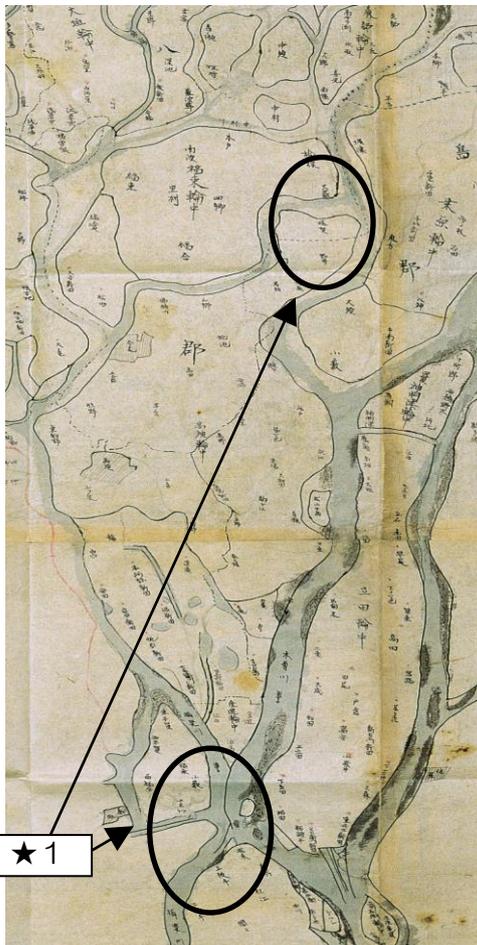


授業で使える当館所蔵地図

No. 30 『木曾三川流域絵図』 作成年：宝暦以降 サイズ：108×58cm 作者：不明	『木曾長良揖斐三川改修後之図』 作成年：1902（明治35）年以降 サイズ：50×97cm 作者：不明
--	--

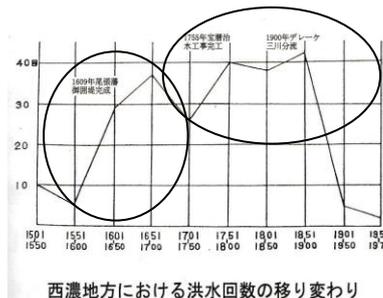


【解説】

岐阜県海津市は木曾川、長良川、揖斐川の下流にある。3つの川に挟まれ、多くの土地は海面より低い。さらに豊臣秀吉、徳川家康によって造られた御囲堤おかこいつみによって岐阜県側に出水が流れ込みやすくなり、たびたび洪水被害に見舞われた。

そこで2度の治水工事が行われた。1753年の「宝暦治水」と1887年の「明治の分流工事」である。度重なる工事によって川の形が変化したり、堤防が造られたりしている。

『木曾三川流域絵図』と『木曾長良揖斐三川改修後之図』を見比べることによって、2つの治水工事の様子がよく分かる地図となっている。



★1 宝暦治水工事（1753年～1755年）

御囲堤おかこいつみが完成した、1609年頃から西濃地方の洪水回数は増えている。

木曾川は、成戸付近で長良川と合流する。長良川と合流した木曾川は水量を増し、さらに油島で揖斐川と合流する。低い揖斐川に流れ込むことでせきとめられ、揖斐川が出水していない場合でも逆流となって刻々と増水して洪水の危険性がある。

そこで、宝暦治水工事が行われた。薩摩藩士の犠牲者を出しながら、堤防のかさ上げ工事や川幅の拡張工事、猿尾や洗堰あらいげき工事を行った。その中でも難工事であったのが三の手と四の手と呼ばれる工事だった。三の手の工事は長良川と大樽川との間に洗堰あらいげきを造る工事であった。2つの川底が2.5mあまりの差があり激しい流れは滝のようになって大樽川に落ち込んでいたため、その流れを弱めるために、洗堰あらいげきをつかった。また、四の手の工事では、各川の合流地点である油島で、水の勢いが最も強くなるため締め切り工事を行った。締め切り工事では通船路として喰い違い部をもった洗堰あらいげきとして完成した。現在、揖斐川と長良川はさらに南にある伊勢大橋付近までいかないと交わることはない。

明治の分流工事（1887年～1912年）

宝暦治水後も洪水の回数はあまり減っていない。そのため、地元住民は政府に対して木曾川、長良川、揖斐川の流れを分けてほしいという意見を出した。そこで、政府は治水などの進んでいるオランダから技師ヨハネス・デレーケを招いて工事が進められた。明治の分流工事以後は、洪水回数が減っている。

★2 第1期工事

第1期工事では、成戸から油島付近まで川筋を整え、^{せわりてい}背割堤を築いた。さらに低水時に河川の流路を確保するためケレップ水制が造られた。それまでは、成戸付近で木曾川と長良川が一緒となり水量が増し洪水に至る原因となっていた。現在、長良川と木曾川は伊勢湾河口まで交わることがない。

★3 第2期の工事

第2期工事では、^{おおくれがわ}大樽川、中村川、佐屋川の締め切り工事が行われた。地図を見ると、名称は残っているが川はなくなっている。現在、^{おおくれがわ}大樽川、中村川は長良川と完全に締め切られ、川の大きさを変え残っている。また、佐屋川は現在なく、用水に形を変えている。

★4 第3期の工事

第3期工事では、揖斐川筋の松木より上流で川筋をまっすぐにする工事が行われた。当時の揖斐川は安八郡内で川筋が乱れていたことが分かる。そのため、水量が増すことで氾濫の原因となっていた。



『木曾三川流域絵図』 上部拡大

【用語について】

• ^{おかいつつみ}御囲堤

犬山から木曾川河口にいたる、約50kmの巨大な堤防。尾張平野を木曾川左岸沿いにぐるりと堤防で囲んでいる。尾張藩を西側から攻められた時に守るといった戦略的な役割と、水害から守る目的で美濃側よりも3尺（約1m）高く造られたと考えられている。そのため、美濃側に水が流れ込む結果となっている。

• ^{あらいせき}洗堰

堤防の一部を低くして、川の水かさが増すと、その上を水が溢れて流れるようにしたもの。

• ^{ざるお}猿尾

水の流れを弱めるために、川の中に石や杭で作った土手。

• ケレップ水制

川の流れを制御し、^{せわりてい}背割堤を流水の直撃から守るための「ケレップ水制」と呼ばれる細長く堤防から突き出た石積みの構築物。



【利用の例】

○宝暦治水工事と明治の分流工事の違いを知ることができる。

→時代の違う地図を見比べることによって工事の内容を知ることができる。

宝暦治水工事 油島で揖斐川と木曾川の流れが締め切り工事によって分けられた。

明治の分流工事 木曾川、長良川、揖斐川の3つの川が分流された。また、川筋が整えられた。

^{おおくれがわ}大樽川、中村川、佐屋川の締め切り工事が行われた。

○当時あった川の名前を知ることができる。

→現在に残る地名から、当時の川の名前を知ることができる。

○どの部分を改修したのかを知ることができる。

→『木曾長良揖斐三川改修後之図』では、赤くなぞられた箇所が改修されたところとなっている。

【参考資料】

- 「ふるさと海津」海津市教育委員会 2006年
- あたらしい岐阜県のくらし 岐阜県小学校社会科研究会 2014年
- 土木学会HP